

福島第一原子力発電所現地確認報告書

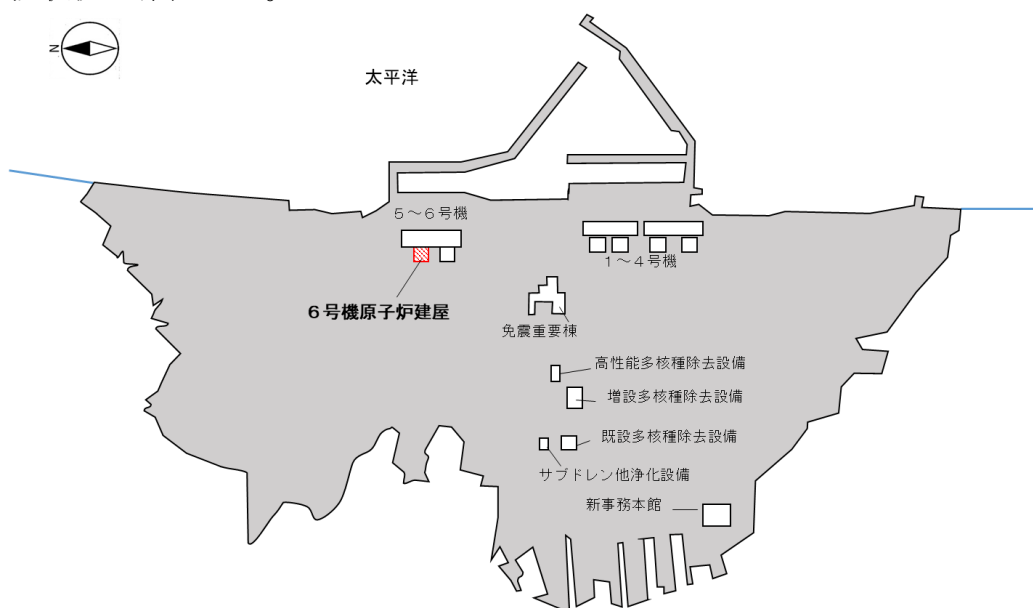
- 1 確認日
令和2年11月13日（金）
- 2 確認箇所
6号機原子炉建屋オペレーティングフロア
- 3 確認項目
6号機新燃料解体・除染作業の状況

4 確認結果の概要

5・6号機で保管されている新燃料を燃料加工メーカーの工場に搬出する計画があり、平成30年10月下旬頃から6号機の新燃料について搬出の準備作業として除染等が原子炉建屋6階オペレーティングフロア（以下「オペフロ」という。）（図1）で実施されていた（現場確認：[平成30年11月15日](#)）。

令和元年11月25日、6号機オペフロにて新燃料の解体・除染作業を実施していた際に、燃料棒72本のうち1本がリフトの下側にはさまり変形するトラブルが発生した。変形した燃料棒1本は、令和2年4月22日～24日に曲げ戻し作業が実施され（現場確認：[令和2年4月23日](#)）、71本の健全な燃料棒が挿入されている燃料集合体に挿入し、4月27日に新燃料貯蔵庫に収納された。

その後、令和2年11月より、解体・除染作業が再開されたため、その進捗状況を確認した。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

- ・現場確認時は、今年度実施予定の新燃料貯蔵庫内の15体中8体目の解体・除染が行われていた。（写真1）
- ・燃料棒が変形した事象の再発防止対策として、指差呼称や作業員間の声かけがなされていた。
- ・また、リフターの上下駆動による干渉を防止するためのガードプレートが設置されていることを確認した。（写真2）
- ・除染された燃料棒は、1本ずつ、スミヤ測定を実施し、燃料集合体に再組立が行われ、再度収納されることとなる。（写真3）



（写真1-1）

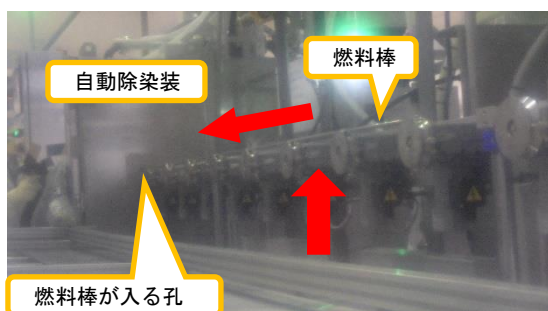
燃料集合体から、専用治具で燃料棒の先端を引き抜き、その後は手で引き抜く。



（写真1-2）

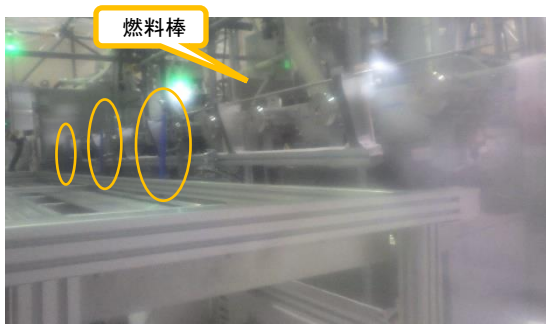
燃料棒は1本ずつ、燃料棒バッファに置かれる。

※写真中の赤矢印は、燃料棒の流れを示す。（以下、同じ）



（写真1-3）

燃料棒は1本ずつ、リフターで除染装置に払い出される。



(写真2)
黄丸がガードプレート



(写真3-1)



(写真3-2)
燃料棒が所定の位置に来たら、スミヤ測定を実施する。



- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。